



ボトル容器内のスプリング製造と
弊社塗装設備で塗装された自動車部品、
化粧品容器、携帯電話

○本社所在地：埼玉県川口市青木3-10-19
○事業概要：各種スプリング製造及び、塗装・
FA・環境設備の設計・製造・組付・メンテナンス
○常時使用する従業員：80名（2025年12月時点）
○現在の売上高：44億円（2025年4月期）
○法人番号：3030001074236
○Web：<http://www.kawaguchi-spring.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
鬼塚 新二

製造業から創る環境に配慮した持続可能な社会の実現

当社は、技術力と誠実さをもって顧客の課題を解決し、**安心・安全で持続可能な未来のものづくりに貢献する**ことをMission（使命）としています。
世界へ広がる“KS（=当社）のものづくり”を通じて、継承された知恵と先進技術を融合し、課題解決型メーカーとしての地位を確立してまいります。
そして、**未来を安心に支える技術の提供**を通じて、**顧客・地域社会・社員の成長に寄与**し続けます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

当社は、2033年の売上目標達成に向けて、年率平均売上約8%の持続的成長を計画しております。
また、**100年続く事業基盤の確立と持続可能な経営の実現**を目指し、社会的課題の解決に資する製品を安定的に供給することで、**年商100億円規模の継続的な達成**を目標としております。
これらの取り組みにより、地域経済への貢献と雇用創出を促進し、社会全体の持続可能性向上に寄与してまいります。

課題

当社は、これまで主に二つの事業を軸に展開してまいりました。
スプリング事業：容器の需要、脱金属（例：樹脂化）へ仕様変更を懸念。
塗装・FA設備事業：景気変動に伴う設備投資の冷え込み等の影響を受ける懸念。これら既存事業の課題を踏まえ、当社はさらなる拡大を図るため、**環境に資する設備の開発・設計・製造により、社会貢献につながる新たな事業領域への参入**を早期に実現し、一定規模のビジネスへと成長させることを目標としております。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

現有二つの事業の拡張を図り、スプリング事業の今後もニーズの発掘、塗装・FA設備事業は高品質の維持・安定のためのロボット化。また**少子化社会に対応した省人化対応のロボットシステムを生産拠点である国内・海外顧客へ拡張の継続**すること。
更なる新事業化として、スプリングとFAの知見を活かし**公共事業である建設業へのインフラ関連リハビリ事業で、作業者の安全性、省人化に対応出来得る製品開発と供給**を行い、日本の課題を解決することで、当社の収益拡大を図ること。

実施体制

特に新事業に関し、ロボット製造メーカーとクローラー設計会社との連携を強化し、現有の工法にない唯一無二の製品を市場に先駆け導入を図っていく。我が国のインフラ整備への貢献度の高い製品を市場評価から更に高めていく事を念頭に改善を推進していく。
将来的に、製品に使用する部位に関連する企業への関連性を強める、もしくはシナジー効果のある企業とのM&Aの構想も模索している

売上高100億円実現に向けた3つの事業柱

■ 既存事業の拡張

- スプリング事業においては、既存顧客の深耕に加え、新たな産業分野（用途展開で医療機器、EV部品等）でのニーズを積極的に発掘し、用途拡大を図る。
- 塗装・FA設備事業では、品質の安定と生産性向上を目的に、最新ロボット技術を導入。自動化による省人化を推進し、少子高齢化社会に対応した持続的な供給体制を確立する。国内拠点におけるロボット化・IoT化（当社製品：KS-MICSの進化）を進め、工程管理の高度化と歩留まり改善を実現。
- 海外拠点では、現地需要に即した生産ラインの拡張を継続し、グローバル顧客への安定供給体制を強化。

■ 環境に資する設備の設計・開発による新事業・新分野進出

- スプリングとFA技術の知見を活用し、公共インフラの維持・リハビリ分野における新製品を開発。建設業の作業者の安全性確保と省人化を両立するソリューションを提供し、社会課題解決と収益拡大を同時に実現する。
現在、橋梁用自走式ブラストロボットと自走式塗装ロボット、道路のコンクリート研磨用の自走式ウォータージェットロボットの開発・販売を開始
- 将来的には、建設・物流・他分野など、労働力不足が顕著な領域への展開も視野に入る。

■ 成長手段（M&A・提携）

- 技術力強化や販路拡大を目的に、Sierや開発技術を持つ企業とのM&Aや戦略的提携を検討。これにより新分野への迅速な進出を可能とする。

■ 先進性・競争力

- 高品質・高信頼性を維持するためのロボット化・デジタル化を兼ね備えた生産力増強に向けた投資に加え、AI等による予知保全や生産最適化を導入。
- 製品・サービスの競争力を「省人化」「安全性」「環境負荷低減」の三軸で強化し、持続的成長を実現する。

